



JAたじま

自己

改革

の取組

私たちJAたじまは地域に根ざした農業協同組合として、これまで組合員の農業所得の向上と、但馬農業の維持・拡大、そして地域の活性化に取り組んできました。政府が定める農協改革集中推進期間(~平成31年5月)を見据え、JAたじまではあらためて「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の使命を担い、スローガン **たじまに生きる たじまを活かす**のもと、自己改革の取り組みを進めてまいります。

1 農業者の所得増大

但馬の自然を生かした米づくりで所得向上



JA たじまでは但馬の魅力である豊かな自然を守りながら、その自然を生かした米づくりを推進してきました。栽培に使用する農薬を減らした「特別栽培米」として、コシヒカリでは「ふるさと但馬米」、酒米では「五百万石」などに取り組んでいます。中でもコープこうべと連携した「つちかおり米」、酒造メーカーと連携した「フクノハナ」の栽培は平成29年度に30周年を迎えるなど、長期的な取り組みとなっています。

※平成29年度特別栽培米集荷実績（11/30時点）
16万6,580袋（全集荷数量の4.7%）

「コウノトリ育むお米」の積極的な生産拡大・販促実施

コウノトリとの共生をめざして平成15年から作付が始まった「コウノトリ育むお米」は、自然環境に配慮して無農薬・減農薬で栽培されたお米です。平成29年度には作付面積が457.3haと年々拡大しています。平成29年1月からは、歌舞伎役者の片岡愛之助さんをイメージキャラクターとして、関東圏から沖縄まで幅広い地域で販促活動を行うなど、コウノトリ育むお米を環境に配慮した但馬産米のブランドリーダーとして積極的な販促に取り組んでいます。



「たじまピーマン」が近畿圏最大の産地へ

但馬の全域で栽培に取り組んでいるピーマンは、平成27年には販売高2億円を超え、夏秋ピーマンでは近畿圏最大の産地となりました。さらなるブランド化を進めるため、平成27年には「たじまピーマン」を地域団体商標に登録しました。また、但馬発祥の「朝倉さんしょ」の産地拡大・ブランド化を進めています。



直売所「たじまんま」の売上累計が31.6億円

平成23年、豊岡市にオープンした直売所「たじまんま」の平成29年11月末までの累計来店者は155万人、累計販売高は31億6,000万円となりました。



2 農業生産の拡大

生産者・消費者ニーズに応える「こうのとりにカントリー」

平成27年、豊岡市に「こうのとりにカントリーエレベーター」を設置しました。50t貯留ビン88基と1tコンテナ120基を使用し、但馬の特徴あるお米の、生産者・品目の個別乾燥を実現しました。



専門の体制で担い手農家を支援

平成28年度には、大規模担い手農家への対応を専門とした「担い手支援センター」を設置し、TAC（担い手専門営農相談員）を中心として地域の担い手農家に対する支援活動に取り組んでいます。



J A たじま 自己改革の取り組み

但馬のお米を 2020年東京オリンピックへ

2020年東京オリンピックでの食材採用をめざし、組合員農家とともに、「コウノトリ育むお米」の「G-GAP（グローバルギャップ）」（国際的な農業生産工程管理の基準）の取得に取り組んでいます。



お米の直接販売10億8,700万円、 輸出累計31トン

J A たじまでは関東圏から沖縄まで幅広い地域で但馬のお米を販売しており、平成28年度は10億8,717万円を直接販売しました。また、平成27年度からは「コウノトリ育むお米」の海外輸出



に向けた取り組みを進めており、ミラノ万博やドバイ国際食品見本市への出展や香港やシンガポールで試験販売、アメリカへの輸出を行っています。（累計輸出数量31.3トン）

3年連続で子牛平均価格 1 位

養父市の「但馬家畜市場」で年9回子牛のセリ市を開催しており、平成26年から平成28年まで3年連続で子牛平均価格全国1位となりました。



資材主要品目で値下げ・価格上昇を抑制

肥料・農薬の集約を図るなど、資材コストの低減に取り組んでいます。

平成29年には組合員利用が多い肥料「エムコート」について、製造業者と直接交渉を行い、20%の値下げを行いました。また、大規模担い手農家を対象とした還元施策は対象を拡大して実施し、地域農業の維持・発展を支援しています。



但馬牛の 子牛256頭の 増頭を達成

新規就農・規模拡大にかかる経営指導のほか、牛舎整備への助成に取り組んだ結果、飼養頭数は平成19年の3,259頭から平成29年には3,515頭に増加しました。



生産効率を高める 施設整備を促進

農作業効率の改善によって生産拡大を図るため、特産物施設の整備を進めました。今後も必要な設備の更新を進め、生産効率の向上・生産拡大を支えていきます。



2億9,200万円融資で農業経営を支援

「アグリマイティ資金」など低利な資金の提供に取り組んだほか、平成29年度には生産拡大を目指す農家に向けた助成事業を実施しました。

※平成28年度営農資金貸出実績 119件 2億9,205万円

3 地域の活性化

但馬全域でニーズに対応した介護サービスを提供

JAたじまでは「人として、その人らしく生きる力を応援します」を高齢者介護福祉事業の基本理念に掲げ、サービス拡充を進めてきました。平成26年には豊岡ショートステイ、七釜デイサービスを開業するなど、但馬管内に4つの介護センターと2つのデイサービス、1つのショートステイ施設を運営し、訪問・居宅・通所・短期入所生活介護事業を行っています。さらに、JA独自のサービスとして「高齢者生活支援事業」を行うなど、地域の高齢者とそのご家族のニーズに応えた介護サービスを行っています。



年間のべ 2,900名の 金融相談に対応

地域の営農振興を支える「農業・生活メインバンク」として、貯金のほか、営農資金の貸付や住宅・マイカー・教育ローンなど各種ローンの提供を行うとともに、各種相談会では年間のべ約2,900名（平成28年度）の方のご相談に対応しました。

こども向け交通安全教室の開催

JA共済では但馬の未来を支える子どもたちを交通事故から守るため、交通安全の啓発活動に取り組んでいます。平成23年度からは「アンパンマン交通安全キャラバン」を開催するほか、平成29年度からは新たに管内中学校でスタントマンを起用した交通安全教室を開催しています。



年金友の会で35,000人が交流

JAたじまで年金をお受取りいただく方々の組織「年金友の会」は会員数が約35,000人（平成29年度）となっており、観劇会やグラウンドゴルフ大会、旅行などを通じて親睦を深めています。



子育て支援と地域貢献



子育て中の母親を対象とした料理教室「ママ友くらぶ」や会員限定イベントが好評の「アンパンマンこどもくらぶ」を通じて親子で楽しめる場の提供に取り組んでいます。また、小学生が参加する地域スポーツ大会への協賛など地域貢献に取り組んでいます。

「あぐりキッズ」で食農体験

平成21年に開講した食農体験教室「あぐりキッズスクール」は、平成29年度で9年目を迎え、これまでのべ700人を超える小学生が参加しました。JAでは但馬の農業と農産物のファンづくりをこれからも続けていきます。



 たじま農業協同組合

〒668-0051 兵庫県豊岡市九日市上町550-1 TEL 0796-22-7265
www.ja-tajima.or.jp